

夏季オリンピックにおける 女子選手の活躍

OLYMPICS



2016年リオデジャネイロ

2012年ロンドン

全競技で女子種目開催
参加したすべての国・
地域で女子選手を派遣

2004年アテネ

女子レスリングが正式種目に

2000年シドニー

女子重量挙げが正式種目に

1996年アトランタ

女子サッカーが正式種目に

1992年バルセロナ

女子柔道が正式種目に

1984年ロサンゼルス

女子マラソンが正式種目に

1928年アムステルダム

日本人女子初参加
(陸上)

1900年パリ

初めて女子競技が加わる
(テニス・ゴルフ)

1896年アテネ

男子競技のみ

1896年アテネ

1900年パリ
2種目
2.2%

1928年
アムステルダム
4種目
9.6%

1964年東京
7種目
13.2%

1992年バルセロナ
19種目
28.8%

1992年バルセロナ

2016年リオデジャネイロ
28種目
45.2%*

2016年リオデジャネイロ

女性の社会的な地位向上に伴い、
種目・参加者が大幅に増加

女子競技数

女子選手の割合

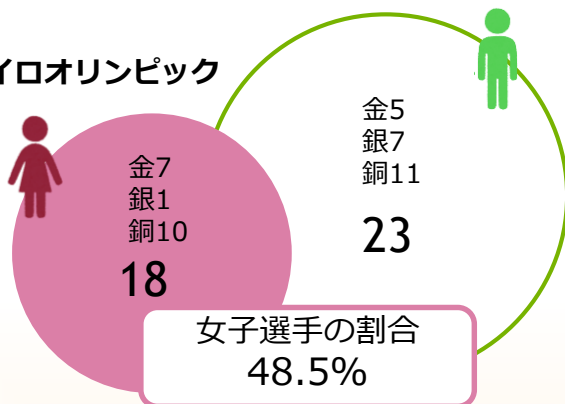
※資料：IOC『FACTSHEET WOMEN IN THE OLYMPIC MOVEMENT』（2018年2月）

夏季オリンピックにおける 日本女子選手の活躍

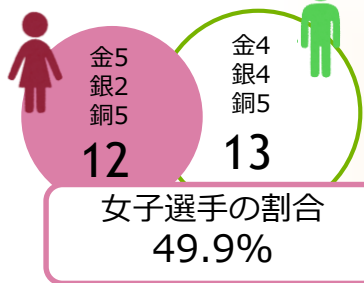


夏季オリンピックにおけるメダル数

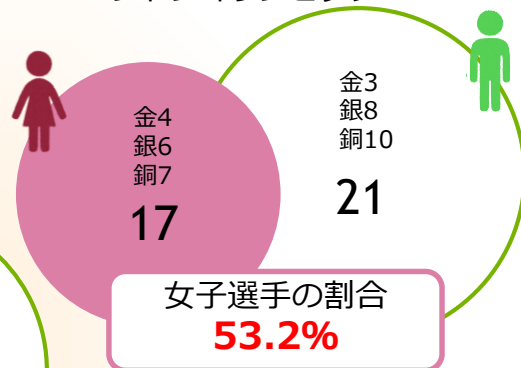
2016年
リオデジャネイロオリンピック



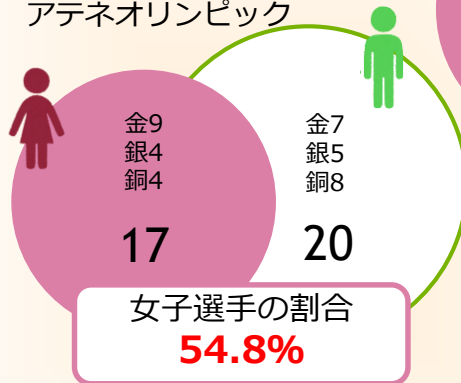
2008年
北京オリンピック



2012年
ロンドンオリンピック



2004年
アテネオリンピック



女性の活躍の礎となっているのが、1994年世界スポーツ会議で採択された「**ブライトン宣言**」です。スポーツのあらゆる分野における男女の機会均等を求めたこの宣言に、2001年日本オリンピック委員会（JOC）も署名しました。その後、2014年には、「ブライトン・プラス・ヘルシンキ2014宣言」が採択され、2017年にスポーツ庁など5団体が合同署名しました。

一方で課題も

成長期の健康管理

～知ってほしい身体のこと 1～

10代から20代は骨の形成にとって大切な時期です。十分なカルシウムを取り、適切な運動量を維持し、順調な月経があることで高い骨量・骨密度を得ることができるのです。これらのバランスが整った状態で、最大限に力を発揮することができるのです。

エネルギー不足

体脂肪を減らさない
と記録が伸びない

過度な食事制限や
激しいトレーニング



黄体形成ホルモン
分泌の低下

カルシウムなどの
栄養不足

女性アスリートの
三主徴

視床下部性無月経
(運動性無月経)

疲労骨折

こつそしょうしょう
骨粗鬆症



今月も月経が
ないけど・・・
まあいいか

骨の成長にとって大事な
ホルモン（エストロゲン）
が、低下し骨量が減少



あ～また
骨折

少ないロールモデル ～役員も男性ばかり～



※役員とは、監督・コーチ・ドクター・トレーナーなどのスタッフ

女子選手の **参加者数が、48.5%**となった
リオデジャネイロオリンピックにおいても・・・
女性役員の割合は、**18.3%**です。

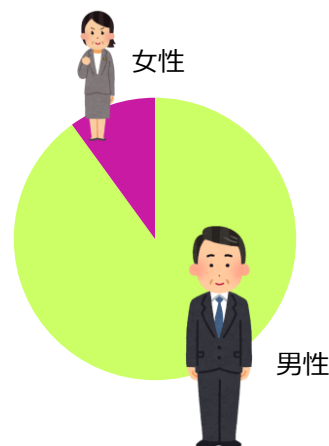
**女性役員
0人の競技**

女子のみが参加した競技	テコンドー・クレー射撃
男女とも参加した競技	レスリング・テニスなど9競技
男子のみが参加した競技	サッカー・ボクシング・水球

資料：JOC「リオデジャネイロオリンピック2016日本代表選手団」

その背景には・・・ スポーツ団体役員の**約9割が男性**

日本オリンピック委員会役員	20.0%
日本オリンピック委員会加盟団体 における役員	14.2%
日本体育協会役員	23.3%
日本体育協会加盟団体における役員	12.6%



資料：内閣府男女共同参画局「令和元年度女性の政策・方針決定参画状況調べ」

**女性役員というロールモデルが少ないことも
女性指導者が育ちにくい要因です。
スポーツ界全体において女性の参画を促す必要があります。**

ハラスメント

～あらゆる暴力の排除に向けて～



アスリートにとって指導者は、精神的にも身体的にも近い存在です。その中で、**不均衡な権力の関係**や、**競技優先の限られた社会環境**は、ハラスメントを受けても、気づきにくい、声を上げにくいという状況を作り出しています。



ハラスメントが生じやすい構造的要因

スポーツ集団内の要因

- 指導者とプレーヤー間の権力関係
- プレーヤー間の厳格な上下関係
- 勝利至上主義
- 集団主義 など

スポーツ界全体の要因

- 男性中心的な風潮や制度
- 競技成績が進学や就職に役立つ
- スポーツの場が社会から閉鎖的になっている など

スポーツ指導者の心得

1. 指導者はプレーヤーに対して権力を持っていることを自覚する
2. 指導者による反倫理的な言動の多くは、指導者のもつ権力を背景に生じることを自覚する
3. 指導者による反倫理的言動は、プレーヤーの人権やスポーツを行う権利を侵害することを自覚する

【出典】公益財団法人日本体育協会「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」

相談体制の確立

スポーツの場における防止対策推進